

殺虫剤

スターガード® 粒剤

第 22738 号

種類名：ジノテフラン粒剤

- 特長**
- 有効成分が植物体内に速やかに浸透移行して、茎や葉に到達します。発見しづらく防除も難しい微小害虫や潜葉性害虫への対策に効果を発揮する殺虫剤です。
 - 多くの野菜に登録があり、マイナー作物・地域特産作物にも広範囲に対応していますので、使用者のニーズに幅広く対応できます。「花き類」「つじ類」にも使えますので、ガーデニングにも重宝する殺虫剤です。
 - 人畜・魚類・鳥類に毒性が低い化合物です。また、作物への薬害も生じにくく、扱いやすい殺虫剤です。
 - アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類、ハモグリバエ類、コナガ・アオムシなど多くの害虫を、効率的に同時防除できます。
 - 多くの登録作物で、「定植時」と「生育期」の処理時期が選べます。

【有効成分】 ジノテフラン……………1.0%

【性状】 類白色細粒 【毒性】 普通物※ 【危険物】 -

【有効年限・包装】 5年・800g×18

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

スターガードは三井化学アグロ(株)の登録商標です。

商品規格



〈通常ラベル〉			〈ROSEラベル〉		
規格	入数		規格	入数	
800g	18		800g	18	
希望小売価格・税抜（税込価格）			希望小売価格・税抜（税込価格）		
1,280円（1,382円）			1,280円（1,382円）		
サイズ幅×高さ×奥行（mm）	重量		サイズ幅×高さ×奥行（mm）	重量	
個装 145×230× 80	800g		個装 145×230× 80	800g	
中箱	—		中箱	—	
外箱 540×170×300	15.5kg		外箱 670×150×320	15.5kg	
ITFコード			ITFコード		
14571367110013			14571367110211		
JANコード			JANコード		
4571367110016			4571367110214		

適用病害虫・使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフラン
きゅうり	ハモグリバエ類 アザミウマ類	2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	4回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び定植時の株元散布は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内)
	アブラムシ類 コナジラミ類	1~2g/株	生育期 但し、収穫 14日前まで		株元散布	
メロン	ハモグリバエ類 アザミウマ類	2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	3回以内(育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び定植時の株元散布は合計1回以内、散布は2回以内)
	アブラムシ類	1g/株				
	コナジラミ類	1~2g/株				
すいか	ワタアブラムシ	2g/株	生育期 但し、収穫 21日前まで	1回	株元散布	4回以内(育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内)
かぼちゃ	アブラムシ類 コナジラミ類	2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	3回以内(定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
なす	ハモグリバエ類 アザミウマ類 コナジラミ類	1~2g/株	定植時	2回以内	植穴土壌混和	3回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び定植時の株元散布は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
	アブラムシ類	1g/株	生育期 但し、収穫 前日まで		株元散布	
トマト ミニトマト	ハモグリバエ類 コナジラミ類	1~2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	5回以内 (育苗期の株元散布は1回以内、定植時の灌注は1回以内、定植時の土壌混和は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
	アブラムシ類	1g/株	生育期 但し、収穫 前日まで	2回以内	株元散布	
ピーマン	アザミウマ類	1~2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
	アブラムシ類	1g/株	生育期 但し、収穫 前日まで	2回以内	株元散布	
とうがらし類	アザミウマ類	1~2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内)
	アブラムシ類	1g/株	生育期 但し、収穫 14日前まで		株元散布	
キャベツ	アザミウマ類	1~2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	3回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布は2回以内)
	アオムシ コナガ	2~3g/株				
	ハイマダラノメイガ	3g/株				
はくさい	アブラムシ類	2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	3回以内 (定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布は2回以内)
	アオムシ コナガ	2~3g/株				
	ハイマダラノメイガ	3g/株				
ブロッコリー	アブラムシ類 コナガ	2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	3回以内 (定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布は2回以内)
ねぎ	アザミウマ類 ハモグリバエ類	6g/m ²	生育期 但し、収穫 3日前まで	2回以内	株元散布	4回以内(は種時の土壌混和、育苗トレイへの灌注及び定植時の株元散布は合計1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
にんじん	ハモグリバエ類	9g/m ²	は種時	1回	播溝土壌混和	4回以内(は種時の土壌混和は1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布は2回以内)
だいこん	アブラムシ類	6g/m ²	生育期 但し、収穫 30日前まで	1回	播溝土壌混和	5回以内(は種時の播溝土壌混和は1回以内、は種時の全面土壌混和は1回以内、粒剤の散布は1回以内、水溶剤及び液剤の散布は合計2回以内)
		4~6g/m ²			全面土壌混和	
		9g/m ²				
チンゲンサイ	アブラムシ類 キスジノミハムシ	6g/m ²	定植時	1回	土壌混和	3回以内 (は種時及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)
非結球あぶらな科 葉菜類 (チンゲンサイを 除く) かぶ	アブラムシ類 キスジノミハムシ	6g/m ²	は種時		播溝土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
なばな類 ほうれんそう	アブラムシ類					
だいず	フタスジヒメハムシ					
しゅんぎく	ハモグリバエ類	9g/m ²	定植時	1回	播溝土壌混和	3回以内 (は種時及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)
いちご	ワタアブラムシ	0.5~1g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	1回
オクラ	アブラムシ類	9g/m ²	生育期 但し、収穫 14日前まで	1回	株元散布	3回以内 (株元散布は1回以内、散布は2回以内)
さやえんどう	ハモグリバエ類	9g/m ²	定植時	1回	植穴土壌混和	3回以内 (株元散布は1回以内、散布は2回以内)
きく ガーベラ	アブラムシ類 コナジラミ類	1g/株 (但し、1m ² 当り 30gまで)	定植時	4回以内	植穴土壌混和	5回以内 (土壌混和は1回以内)
	マメハモグリバエ	2g/株 (但し、1m ² 当り 30gまで)				
	アブラムシ類	20g/m ²				
花き類・ 観葉植物 (きく、 ガーベラ を除く)	アブラムシ類 コナジラミ類	1g/株 (但し、1m ² 当り 30gまで)	定植時	1回	植穴土壌混和	5回以内 (土壌混和は1回以内)
	アブラムシ類	20g/m ²	生育期	4回以内	株元散布	
つじ類	ツツジグンバイ	6g/m ²	発生初期	5回以内	株元散布	5回以内

■については有効成分を含む農薬の総使用回数を示すものです。

使用上の注意

- (1)間引き菜、つまみ菜に使用しないこと。
- (2)本剤の株元散布を行う際は、処理直後に灌水すること。
- (3)蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にかからないようにすること。
- (4)ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
 - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
 - ③関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (5)作業中や散布当日は散布区域に小児やペットが立ち入らないように配慮すること。
- (6)容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (7)本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

宅地、駐車場等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法では、その該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、食品と区別して、子供の手の届かないなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。また、他の容器に移し替えて保管しないこと。